

寒河江川流域砂防事業の概要



大越川崩壊地



昭和51年8月6日 西川町大井沢地区



現在工事中の横岫沢砂防堰堤
(令和2年3月時点)

寒河江川流域内の朝日山系は花崗岩類のマサ化により荒廃し、月山山系は火山噴出物で覆われた脆弱な地質で、いずれも大量の土砂を流出して、寒河江川の河床を上昇させ乱流を引き起こし、河岸崩壊や氾濫によって沿川に災害をもたらしてきました。

そのため、昭和16年に山形県で砂防事業に着手し、堰堤6基（水沢川3基、岩根沢川3基）の砂防堰堤を完成しましたが、いずれも下流域であり、流出土砂の根源である上流域は手つかずの状況でした。

これを受け、間沢川合流前より上流の331.9km²を直轄砂防区域に指定し、昭和26年度から国による砂防事業を開始しました。

現在まで砂防堰堤48基が完成しています。

(令和2年3月末時点)